

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース =No.58=

【巻頭言】

**2016年度 通常総会を終えて
～会員のニーズに合った
地域への事業拡大を目指す～**

理事長 河野 健三

1. 2016年度通常総会を終えて

(1) 2016年度(第20回)の通常総会は5月14日(土)、41名の会員参加のもと波止場会館で開催され無事終了しました。引き続き行われた特別講演では神奈川県環境農政局環境部環境計画課の清水副課長様から「地球温暖化と県の取り組み」をテーマにご講演を頂きました。総会後に行われた懇親会では25名の会員が参加し、参加者の抱負発表等あり相互理解・懇親を深めることが出来ました。ご協力有難うございました。



2016年度は、昨年12月のCOP21のパリ協定合意を受けて、地球温暖化は環境上の緊急事態であるとの共通認識のもと、国・県・市等の環境政策の大きな転換点になります。同時に、私たちKECAや環境カウンセラーとしての役割が一段と重要視される年になると考えられます。

(2) 次に2015年度を振り返り、2016年度の進め方について抱負を述べます。

2015年度はNPO法人としてのKECAを見つめ直す契機となった1年でした。

2015年度の総会で定款変更を行い、活動の目的に「環境の保全を図る活動に、経済活動の活性化を図る活動」を加えて、委員会・支部などで幅の広い事業(活動)が展開できるようになりました。

特に、EA21事業が環境管理委員会と連携のもと支部への拡大が進められ、環境教育委員会では環境教育インストラクター応募資格取得セミナーを中心に活発な事業が展開されており、新入会員2名の委員会入会もありました。加えて、定款変更等に伴う国(法務局)、行政(横浜市)への届出、総会資料の作成にあたり、横浜市指導による「事業と管理・運営への分類」、「NPO法人会計基準に則った報告」など、NPO法人運営の基本的なルールが整ったと考えています。2016年度は、これまでのどちらかという内向きな議論に終止符を打ち、外部に向かって打って出る事業(活動)に取り組んでいきたいと思ひます。

2. 2016年度の進め方

事業については総会資料に基づき進めていきますのでここでは管理・運営については述べます。

目次	
P1 2016年度通常総会を終えて～会員のニーズに合った地域への事業拡大を目指す～	P8 化学物質について・・・化学物質委員会 石井員良
理事長 河野健三	P9 支部活動報告・樹木勉強会・・・県央支部 守谷喜芳
P2 ECU(環境カウンセラー全国連合会)通常総会に参加して	P10 2016年度の支部活動カテゴリー 湘南支部 中本正治
・・・理事長 河野健三	P10 戸塚名瀬の里山づくり・・・横浜支部 田中真次
P4 [寄稿] EA21 草創期の・・・奮闘をふりかえる	P11 15年目を迎えた”すかつ子たけ”・・・横三支部 高橋弘二
相模原支部(初代 ECU 理事長)先崎 武	P13～15 会員投稿
P6 委員会活動報告・・・環境教育委員会 岡本正義	・国立環境研究所ソサエティ 2016 参加・・・川崎支部 佐久間精一
P7 初のエコアクション21セミナー開催	・地球温暖化対策・COOL CHOICE・・・湘南支部 西村堅一郎
・・・環境管理委員会・横浜支部 野々村信雄 村井哲郎	P16 新入会員・自己紹介/総合研修会案/編集後記

(1) 会員サービスの向上

会員の皆様へのサービス提供については、委員会・支部で自主活動されている会員は別として全体的に配慮が不足していたと考えております。

今年は会員サービスという面で、会員の皆様へ如何に活動の場を提供出来るかを考えていきます。そのため今までの事業・活動の棚卸しを行い、これまでに培われた事業の「見える化」と参加希望会員勧誘で委員会・支部はもとより、それに捉われない自由参加ができるような仕組みをつくりまします。会員の皆様のニーズを把握し、会員の皆様に出来るだけ満足して頂けるような事業展開を進めてまいります。

(2) 2017年度の事業計画・予算編成を進めつつ、地域への事業拡大を目指す

現在の委員会活動、支部活動の2本立ての組織は2003年に開始され10数年が経過しました。この組織の活動により今のKECAがあります。しかしながら、現在の会員の皆様や事業者、市民の皆様のニーズに十分応えられているか検討する時期に来ています。①会員へ活動の場を広げること、②受益者たる市民、行政、事業者から受け入れられる活動をするを目標に、これからKECAとして何をやるべきか、どのようにやっていけば良いのか、検討し実施していきたく思います。

(3) 認定NPO法人の要件獲得を目指した事務局機能の強化とそのための会員募集

5月の理事会では認定NPO法人について議論が始まりました。かなりハードルが高く数年を要することも考えられますが、これを目指すことはKECAの仕組みづくりにつながると考えています。

認定取得の要件は大きく分けると、事業の公益性、組織・運営体制、広報活動・情報公開の3つに区分されます。KECAのあるべき姿を目指して、求められている要件の検討を進めていきます。

来年度は役員改選の年になります。打って出る新体制をつくり理事長が兼務している事務局機能を強化するため、「KECA ニュース・事務局だよりの発行、ホームページの改善・保守や、会員増加策を含めた会員管理など」、ご協力いただける会員を募集いたします。

以上、会員の皆様のご支援・ご協力を得ながら進めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

以上



第20回通常総会風景



総会後の懇親会の様子

ECU（環境カウンセラー全国連合会）

通常総会に参加して

KECA 理事長（ECU 理事） 河野 健三

ECUの2016年度通常総会は6月24日に東京都千代田区のエッサム神田ホールで、全国の環境カウンセラー（以下ECと呼称）協（議）会の代表を含むEC19名が参加して盛大に行われました。

記念講演は「感染症防止に効く薬がなくなる～抗生物質による環境汚染～」をテーマに栃木県EC協会の近藤和雄氏からお話がありました。世界の抗生物質の半分は中国にあり、管理が不十分のため河川、土壌に

蓄積されているとのことでした。

佐々木 ECU 理事長が議長となり、事業報告・決算報告に続いて、事業計画・予算の説明・質疑が行われ、提案通り承認されました。役員としては全国で 38 名、KECA からは西村副理事長と下名が選任されました。なお、ECU 関東Aブロック協議会の会長を務められた当協議会の木村理事（前理事長）は退任されました。

1. 2015年度の活動報告

昨年度の報告では、これから行われる環境カウンセラー（以下 EC と呼称）制度改革への動きを踏まえた全国 8 箇所での「環境カウンセラー制度改革提言のための意見交換会」開催（9月に政策提案の予定）、環境省との連携強化を目指した環境省幹部への頻繁な訪問等、理事長をはじめ常務理事の皆様の活発な活動がうかがえました。また、ECU として環境大臣賞を受賞したこと、日本環境協会が行ってきた EC 登録制度運用等業務への応札したこと等について報告がありました。入札結果については、提案内容は合格でしたが金額面で不合格になったとのことでした（落札は、これまで通り日本環境協会）。

2. 2016年度の事業計画

国家予算を伴う環境対策計画として、昨年度「地球温暖化対策計画」が決定され、これから一層 EC の活躍が期待されます。また、ESD 国内実施計画が決定され、ここでは「EC 制度と人材認定等制度の活用」が明記されており、「地球温暖化対策計画」と共に ESD の活動範囲も広いので、ここでも EC の活躍が期待されるとの説明がありました。

今後の方向としては上記現状認識を踏まえ、環境省との連携により EC 制度の活性化を成し遂げる、EC 協（議）会の全国ネットワークの早期確立、ECU 役員へ女性及び大学教授等学識経験者の積極的登用等が掲げられました。事業計画では環境人材育成として環境教育インストラクター認定の標準テキスト作成、化学物質リスクアセッサ養成事業、仮であるが EMS 指導者認定、GW（地球温暖化）対策リーダー認定、ESD コーディネーター認定等を検討中であるとのことでした。

また啓発・交流を目的として、9月10日に ECU 設立15周年記念大会、視察旅行として福島第一原子力発電所を計画中であるとのことでした。

3. ECU理事長表彰受賞

KECA からは、長年に亘る環境保全活動が認められ、小林嘉博（西湘支部）、齋藤雅彦（横浜支部）、西村堅一郎（湘南支部）の各氏が ECU から環境保全功労者として表彰されました。おめでとうございます。今年度は4名の女性が表彰されており、他協（議）会では女性 EC が活躍されているようですので、KECA としては羨ましく感じました。



ECU 理事長表彰者記念撮影

- ・中央女性に囲まれて：佐々木 ECU 理事長
- ・佐々木理事長右後ろ：西村氏（湘南支部・副理事長）
- ・左から2人目：齋藤氏（横浜支部）
- ・右端：小林氏（西湘支部・前副理事長）

【寄稿】

EA21草創期の「全環連」「ECU」、 「KECA」の奮闘をふりかえる

相模原支部 先崎 武 (ECU 初代理事長)

はじめに

私は1997年3月の環境カウンセラー第1期登録者856人の一人です。環境省認可の社団法人全国環境保全推進連合会 (NAPEC) と一体となった環境カウンセラー全国連合会 (ECU) およびかながわ環境カウンセラー協議会 (KECA) などの環境カウンセラー (EC) グループが、EA21の草創期に中小企業者の環境経営定着のために真剣な取り組みを展開した一時期があったことを、以下、すでにお亡くなりになった当時のお仲間に思いを馳せながら振り返らせていただきました。

環境庁 (当時) は規制官庁といわれる。開発型の通商産業省 (当時) をはじめとする伝統ある経済官庁と利害が対立する。もちろん環境庁はいつも押され気味だ。庁職員は環境時代の到来を認識し、信念をもって入省した優れた人材が多い。彼らは経済活動の行き過ぎを規制するのみならず、零細企業の保護育成政策を立案するが、既成省庁において細かく縄張りが決まっているため、頓挫する場面が多い。そこで経済官庁から抹殺されにくい施策を考案する。

EC制度やEA21がそれだ。1992年の地球サミットを契機として、公害から環境へと変化する大きなうねりの中で発足した。環境保全活動を、家庭と事業者でどのようにやっていけば良いのか模索する中で1996年に環境庁により創設された。特にEA制度はEC個人が市民部門、事業者部門、両部門のどちらかに登録される世界でも珍しい制度である。国家資格ではないが、社会・経済活動等を踏まえた幅の広い活動を要求されるECにとっては、専門分野を特定しない日本的な緩やかな制度であると考えている。環境庁の公認を得てECが燃えた。

1992年の地球サミットは、公害時代から環境時代へと環境行政に大変革を及ぼした。規制一本やり行政は見直された。私たちに縁の深いEC制度および参加型EA21の施策が打ち出されたのは1996年で、京都議定書採択はその翌年だ。環境行政の変貌期の所産である。

(1) 参加型EA21の誕生

1996年、環境庁は「全国700万近い事業所に対して自主的に“環境との関わりに気づき、目標をもって行動する”ことができるように、実効ある簡易な方法」として「環境活動評価プログラム」の普及・指導を開始した。真新しい仕組みなので、環境庁は、「山頂 (目標) を極めるには誰がどの道に登ってもよい。参加することに意義がある」と参加を呼びかけた。1998年頃だったか、環境庁は、環境活動評価プログラムに参加している事業所には入札優遇策を講じた。各省庁の物品購入機関は環境庁に見習った。自治体もこれに習い始め、事業所間にも広がりを見せつつあった。

このようなとき、NAPECに事業所間取引における環境活動評価プログラムのトラブル発生情報が入った。内容は、参加の事実がない企業が参加したと偽って有利に取引したというケースである。環境活動評価プログラムを悪用する企業が現れたのである。自由参加型の環境活動評価プログラムは理想だが、インセンティブを与えると、当然のように悪弊が露われる。

(2) 好機、NAPECを東京へ移転

2000年当時の私は、東京都文京区本郷三丁目の厚生省 (当時) 認可財団「性の健康医学財団」の理事・事務局長で、地下1階地上5階の財団基本財産「泰生ビル」を管理していた。また、かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA) の副理事長を務め、ECの関東連絡会のECUの設立担当だった。NAPECは泰生ビル4Fに事務所を構えた。理事長はじめ役員職員は私の顔見知りの面々だった。私は本業のほかKECA副理事長 (ECU立ち上げ担当)、NAPECの理事 (無報酬) として、非常勤のNAPEC理事長の業務代行までやらさ

れる羽目になった。

2000年6月、環境庁は全国都道府県担当課長会議で、環境評価プログラムの普及推進は、NAPECに委託する。事業所のEA21への取り組みの指導・相談にあたるのは、環境カウンセラーを含む専門家とする、とコメントした。環境庁がECに具体的役割を担わせようとしたのは、これが初めてだ。

早速、私はKECAの役員会および関東連絡会に報告し、合わせてNAPECの役員としてEA21へのご協力をお願いした。これがきっかけで、NAPEC事務局にKECA所属を中心として、地元東京都杉並区のEC協会などからも、NAPECの新しい役割EA21普及促進事業の支援をしていただくことになった。初めの仕事は2000年度からのEA21のインストラクター(指導者)養成セミナーの実施だったと記憶している。EA21のインストラクターは最終的には400名を数えた。

(3) 初のEA21普及活動への取り組み

2000年後半と記憶するが、ECU誕生前のNAPECの中心的協力組織・KECAは全国に先駆けて、横浜市へ環境活動評価プログラムへの取り組みを働きかけた。ECU誕生前のKECAは、実質的全国EC組織のリーダーであり、NAPECともっとも緊密な関係だったから当然の成り行きだった。横浜市はISO14001取り組みに迷っていた金沢区の工業団地組合(約700事業所)に打診した。すると、説明要請があり、KECA所属ECを中心とする普及・指導EC陣が説明にあたった。結果、18社が取り組むことになった。

事業所代表は、東京都が実施している「エコアップ事業」のようにロゴマーク、名刺などに取り組みの表示、EA21登録証明書などのメリットを求めた。NAPEC/KECAは、事業所代表の求める事項は当然のことと考えられるので、環境庁に既に取り組んだ事業所にはEA21登録証明書を交付すべきだと主張した。金沢区の工業団地組合の18社は、2001年4月にすべて取り組みを終了した。

(4) ECUの発足・・・駆け込み寺の様相

2001年9月環境カウンセラー全国連合会(ECU)が誕生した。私はECUの初代理事長を命じられた。事務局はNAPECと間仕切りなしの相部屋で頻繁に行う会議には財団の会議室を供与した。

発足したばかりのECUに小規模企業が相談に来るようになった。パッキング製造工場は「環境経営ではないから取引を止めるといわれたが、環境ってどうすればよいの?」といった事例だ。このことから、大企業は下請け企業を整理するためにEA21の仕組みを利用し始めたことを知った。ECUはいつか「駆け込み寺」の様相を呈し、上田隆一常務理事が中心になってカウンセリングにあたった。

2002年1月、金沢工業団地18社へは、とりあえず、社団法人全国環境保全推進連合会会長近藤次郎の「参加登録証」を各社へお渡しすることになった。NAPEC専務理事の職にあった私が近藤会長の代理で登録証をお渡しする役を命じられ、金沢工業団地新年会においてお渡しした。*近藤次郎氏：公害研究所所長、日本学術会議会長、文化勲章受章、ECU創立にはときの環境庁中川次官(現参議院議員)とともに馳せ参じていただいた。一昨年逝去された。合掌

(5) 本格的認証登録構想

環境省は、モデルチェンジしたEA21を2004年度以降、本格的に実施することにした。2002年NAPEC理事長は、これに対して環境省と協議し、法人内にワーキンググループ(WG)を設置した。

このWGには、KECA初代理事長の志賀正良氏、事務局長の小竹重一氏、理事の今泉奉氏が参加されていた。(三氏とも逝去)合掌。

このWGは2002年7月にNAPECのEA21評価ガイドライン「環境活動評価プログラムーエコアクション21ーの活用、運用に関する検討・提言書」を取りまとめた。

(6) NAPEC EA21閉鎖・解散からIGES、IPSuSへ

2004年3月30日、社団法人全国環境保全推進連合会(NAPEC)理事会において、2003年度をもってEA21普及業務を閉鎖することになった。EC/ECU/KECAなどが希望に燃えてEA21に取り組んだNAPECという場合は、2005年3月社団法人を整理し解散した。

その後、EA21は認証・登録型となり、普及業務はIGES、IPSuSへと引き継がれ現在に至っている。
以上

【委員会活動報告】

◇◇ 環境教育委員会 ◇◇

環境教育委員会委員長 岡本 正義

【委員会開催日】 毎月第4月曜日（原則）18:30～ 横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

1. 2016年度の環境教育インストラクターフォローアップ研修会

■ 9月10日（土）午後、フクシアで開催予定

これまでにインストラクター応募資格取得セミナーを受講された人を対象に、毎年フォローアップ研修会を開催しております。2016年度は9月10日（土）に横浜市西区福祉保健活動拠点（フクシア）で開催する予定です。今年、昨年の研修会アンケートで要望の多い自然系の体験活動やセミナーをどのように企画するかを狙いとして、実践事例の紹介を通して行う予定です。KECA会員の多くの参加を期待します。



参加者との交流会風景

2. 2016年度環境教育インストラクター応募資格取得セミナー

■ 10月29日（土）、30日（日）、かながわ県民センターで開催予定

KECAが主催する掲題のセミナーの特徴は、受講された方の実践力アップを目指して、環境教育委員会のメンバーが実践している地域の環境保全活動や、学校での出前授業や森林等の自然体験活動、事業者向けの環境教育等の具体的な事例を紹介いたします。授業・講義や観察会などの実施計画作成要領を学んだ後、受講者の専門（得意）とする分野の授業等の実施計画を作成してもらい（第1日目の宿題）、第2日目に全員に模擬授業を実施して頂きます。実施計画書（宿題）をコピーする時間を利用して、受講者と講師（KECA教育委員会メンバー）との意見交換、交流・懇親の時間を持つなど、毎年、受講者からは充実したセミナーとの高い評価を頂いております。第1日目の講義に先立ち、今年、神奈川県環境計画課において“自治体における環境教育の取組み（仮）”について講演して頂く予定です。是非、KECA会員も環境教育インストラクターとしての素養を身に着ける良い機会として参加ください。 <以下、昨年のセミナースナップ写真>



地域の環境学習事例の紹介



分野ごとにワークショップを実施



受講者が講師になって模擬授業

3. 神奈川県環境・エネルギー学校派遣事業の講師派遣を1件受託

2016年度の掲題の学校派遣事業として、「生物多様性～生物をまねた新商品を探せ～」の出前授業を横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校で9月13日に実施する予定です。虫や鳥、植物などの構造や機能をまねて（バイオミメティック）素晴らしい性能を発揮する商品が開発されています。例えば、モルフォ蝶の構造色を取り入れたハンカチやネクタイ、フクロウの羽の構造をヒントに音の少ない新幹線のパンタグラフなどを紹介します。実物に触ったり、実験などを行い、その素晴らしさを体験する授業を予定しています。



バイオミメティック体験風景

◇◇ 環境管理委員会 ◇◇

初のエコアクション21セミナー開催（横須賀市）



環境管理委員会・横浜支部 野々村信雄、村井哲郎

このたび、KECAは横須賀市において、横須賀市内の中小事業者を対象に、環境省が策定した中小企業向け環境経営システム（エコアクション21、略称：EA21）の登録申請支援セミナーを開催しました。横須賀市では、環境基本計画で中小事業者のISO、EA21取得支援をうたっていることもあり、横須賀三浦支部の協力により、横須賀市の後援をいただいて実施いたしました。このような取り組みは、KECAも横須賀市にとっても初めてのチャレンジだったため、入念に計画を立て開催いたしました。

以下、セミナーの結果を報告致します。

【セミナー概要】

- ◆開催日時： 2016年5月20日（金）13：30～16：00
- ◆会場： ヴェルクよこすか（横須賀市福祉会館）4F会議室
- ◆対象： 横須賀市内の中小事業者
- ◆参加者： 22名（事業者4社／5名、体験発表（株）東産業 2名
かながわ地域事務局1名、横須賀市役所職員5名（環境企画課、
環境管理課、経済企画課）、KECA横三支部3名、横浜支部9名）

【プログラム】

- ・司会： KECA横須賀三浦支部 高橋弘二
- ・挨拶： KECA 河野健三理事長
- ・EA21認証・登録制度について・・・EA21地域事務局かながわ事務局長 川崎則子氏（20分）
- ・EA21の内容と取組み方法について・・・EA21審査人（KECA） 平野雅明（35分）
- ・EA21取得企業の体験発表（株）東産業 代表取締役 大井章一氏、環境管理責任者 小泉直人氏（45分）
- ・EA21のよくある質問について・・・EA21審査人（KECA） 村井哲郎（15分）
- ・EA21認証・登録するための指導会（コンサル）について・・・EA21審査人（KECA） 野々村信雄（15分）



セミナー会場風景

【成果】

- (1) 参加事業者（アンケート結果）
 - ①「EA21の取組」及び「EA21体験発表」の説明は共に分かりやすかった： 4／4社
 - ②EA21の導入を検討したい： 2／4社
- (2) 「EA21の認証・登録制度」の詳細を提供できた。
- (3) セミナーに関連する間接的成果
 - ①EA21セミナーのモデルとすることができた。
 - ②横須賀市所管の主要な事業協同組合事務局との繋がりきっかけが得られた。
- (4) 横須賀市の環境政策部環境企画課、環境管理課、経済部経済企画課から若手の職員の方たちが受講され、EA21についてのよい研修になったものと思う。

【課題】

初めての企画であり、入念に準備した積りであるが、参加された事業者数が少なかったこと。

◆◆今後の対応◆◆

下記、項目を企画し推進していきたいと思えます。

- (1) EA21セミナーを継続的に開催
横三支部と協力し、今後も横須賀市経済部、環境政策部の支援を得て、横須賀市内の関連団体へのアプローチを図り、セミナー及び指導会の協働開催を企画したい。
- (2) 集客率向上策の立案
 - ①EA21セミナー開催チラシの内容見直し、②EA21メリット、特長（直接、間接面）、③開催時期
 - ④チラシの伝達手段（伝達の確認含む）、⑤EA21セミナー前の訪問 説明会開催（組合毎）
- (3) 事業者の代表者への伝達方法（EA21のイメージ図作成）

以上

◇◇ 化学物質委員会 ◇◇

化学物質について

化学物質委員会委員長 石井 員良

■ 化学物質とは？

化学物質は、国語辞典では、「化学の研究対象となる物質、また化学的方法によって人工的に合成された物質」（三省堂「大辞林」第二版）と説明されています。法律では、「元素及び化合物」（労働安全衛生法、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法））と「元素又は化合物に化学反応を起こさせることにより得られる化合物をいう。」（化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法））と定義されています。

「化学」という学問的には、「元素及び化合物」が適当であると考えます。したがって、この世の中に存在するものはすべて化学物質となりますが、これでは、世間の常識とはかけ離れているように思います。化学物質は、「化学的方法によって人工的に合成された物質」であるというのが世間一般に認知されている言葉と考えます。

「化学」というと、映画では、色彩鮮やかな液体がガラス器具に入っており、おまけにドライアイスの白煙がもうもうと立っている実験室の場面がよくでてきます。

「化学」＝「魔法」＝「錬金術」のイメージが世の人々の頭の中に浸透しているらしく、「化学」は、何か得体のしれないもののように思われています。したがって、「化学物質」は、最初から敬遠され、なるべく触らないようにしている物で、「化学物質」による事故が起こると、それ、見たことかと、非難の集中砲火が浴びせられるのが常です。

このような不当な扱いを受けている「化学物質」ですが、世の中の役には立っています。食品添加物、医薬品、化粧品、洗剤、殺虫剤、合成樹脂製品（プラスチック）、塗料、染料、合成繊維等々、数え上げればきりがなく、わたしたちの身の回りは「化学物質＝化学物質から作られた化学製品」で、満ち溢れています。「化学物質」があるからこそ、現在の、快適な便利な暮らしを享受できるわけです。これを忘れてもらっては困るのです。

ここに、平成22年6月に内閣府政府広報室が行った「身近にある化学物質に関する世論調査」のアンケート結果があります。（全国20歳以上の者 3,000人、有効回答数：1,942人（回答率64.7%））

このアンケート結果から見えてくる「化学物質」のイメージは、「現在の生活になくてはならないもの」「便利なもの」ではあるが、「危ないもの」「難しいもの」でもあります。

「化学物質」が「便利なもの。なくてはならないもの」は、よく理解されているようですが、「化学物質＝得体のしれないもの」は、依然として解決されていないようです。それは、化学物質の分かり難さによることをアンケートは示しています。

「化学製品の取り扱い注意等」を見る人は多い（約72%）が、「情報が見難い（約68%）」、かつ、「分かり難い（約72%）」のが現状のようです。

そこで、「化学物質」について、世間の人々の認識を変えるために役立つかどうか分かりませんが、「化学物質」の話をKECAのホームページに、随時掲載していく予定です。

まずは、「化学物質は、毒？」です。



【支部活動報告】

＝県央支部＝ 樹木勉強会

県央支部 守谷喜芳

5月21日(土)、大和市の「泉の森」の広場に午後2時半13名の参加者が集合し、樹木の勉強会が行われました。参加者には5組のご夫婦、その内の2組は会員友人のご夫婦でした。初めに各人の自己紹介を行い、その後、今回勉強会の担当で世話役(幹事)の原田さんから、参考として3枚の樹木の葉っぱが配られて、該当名を書くことから始まりました。

各人が持参したテキストの本「葉っぱで調べる身近な樹木図鑑」林将之著によって、葉の形や色、厚さなどでグループ分けを行い、グループごとの葉によく似た葉を探して樹木名を覚える模擬の勉強が行われました。この方法が大変良い勉強となりました。

次に、森林インストラクターやボランティア活動をしている品川さんから植物に関わる参考となる有意義な話を聞いた後、原田さんが用意してくれた記録用紙にメモを取りながら、「泉の森」に生育している樹木の葉っぱから樹木名やその樹木の特質など1時間でどの位探せるかを各人が実践活動しました。

その結果、我が家は16種、多い人はその倍以上になりました。樹木の名前を知ることで自然との係わりが意識づけされる大変有意義な勉強会となりました。私は日頃の散歩の時にでも樹木の名前を忘れないように、葉っぱを押し葉にして持ち帰りました。帰りはビールで乾杯! 樹木の勉強会の反省会を行い、趣味の話などで盛り上がり、みなさん方と友好的な楽しい行事のひと時でした。

樹木勉強会に参加して

参加者 吉田 宏子(海老名市)

日頃から環境について造詣の深い方々の仲間に入れていただき、この会に参加させていただきました。葉の形から樹木の名前を調べるのは初めての経験です。

まず図鑑片手に検索表で葉の形を分類していく。「泉の森」の樹木を次々と調べていく。樹木にはほとんど興味が持てなかったのに不思議です。広場の大きな木は「シラカシ」、街路や公園などで見られる大きなハンテンのような葉の木は「ユリノキ」、そしてオレンジがかった黄色の花をつけること。わが庭に鳥が運んでくれた「クスノキ」、実生で生えたと思われる「サンキライ」や「シャリンバイ」等など、いろいろとわかってくると、だんだん楽しくなってきました。名前の知らない樹木に出会うと、「なんの木だろう」と興味を持ち、樹木図鑑をよく開くようになりました。

私の興味、趣味を花から樹木へと広げていただき感謝しています。



参加された会員と一般の皆さん(男性8名、女性5名)



教材に配られた樹木の葉っぱ

＝湘南支部＝ 2016年度の支部活動スケジュール

湘南支部長 中本 正治

湘南支部は吉池正樹さんと麿嶋一喜さんが退会されて、会員は9名となりました。しかし、都合のつく会員が月末の金曜日に集まって会合を開いています。2016年度の支部活動スケジュールが確定しましたのでお知らせします。他支部会員の皆様の参加も歓迎いたします。

1. 環境フェア

- (1) 茅ヶ崎環境フェア 開催日：9月24日（土）、開催場所：茅ヶ崎市市役所本庁舎、中央公園
 ○KECA 出展パネル・・・KECA 活動紹介、省エネ・温暖化・生物多様性などのクイズ
 ○ワークショップ・・・廃プラスチックをつかったおもちゃ作り
- (2) 藤沢環境フェア 開催日時：11月12日（土）、開催場所：藤沢市市民会館
 出展内容は茅ヶ崎と同一です（流用予定）。
- (3) リサイクルプラザ藤沢のフェアは出展依頼が遅かったため、今回は出展を見送りました。

2. 出前講師（授業）

- (1) かながわ環境教室 実施日：12月5日～16日 対象校：茅ヶ崎市立松林中学校1年生
 湘南支部が応募していた神奈川県「平成28年度環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～」に上記の中学校から実施の依頼がありました。小山稔さんを中心に準備を進めています。DVDの映写とクイズ形式の対話をしながら、地球温暖化について解説する予定です。
- (2) 湘南支部の多くの会員が関連している神奈川県地球温暖化防止活動推進員湘南グループも、藤沢市の高校の出前講師に選定されました。

3. 自然観察会 テーマ：“生物多様性を感じよう！”

KECA ニュース発行日の翌日になりますが、7月23日（土）に自然観察会を実施します。コースは藤沢市北部にある日本大学生物資源科学部博物館、石川丸山谷戸、田んぼ、引地川親水公園、稲荷ふるさとの森、大庭遊水池、大庭城址公園、裏門公園などを歩く予定です、種々の緑が楽しめます。



石川丸山谷戸（7月4日撮影）



大庭遊水池から親水公園、稲荷の森を望む

＝横浜支部＝ 戸塚名瀬の里山づくり

横浜支部・環境教育委員会 田中 真次

1. 里山とは

「里山とは」と尋ねられた時に、桃太郎の昔話で「おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに行きました。」という情景が里山ですと私は答えます。里山のイメージとして、昔遊びの場所、昔懐かしい場所、癒しの場所、生活の場、農業の原点、文化伝承の場、生き物たちの場所等など、数え切れないく

らいあり、まさしく昔話に出てくる風景が思い出されます。

また、小学校3年生の国語の教科書で、写真家の今森光彦氏は「里山は、未来の風景」というエッセイで「しょくぶつやこん虫や鳥など、たくさんの生き物たちのすみかのすぐとなり、人も住んでいることが分かります。こんなふうには、人としぜんがなかよくくらしている場所を里山とよんでいます。」と語っています。

日本人にとってこのような一番身近な場所であった里山の荒廃が、近年目立つようになってきました。里山林や畑には、笹や竹が侵入して密集し、樹木の生育や立ち枯れを引き起こしており、下層植生は貧しくなり、落葉樹林に生育していた野草、昆虫、動物なども見られなくなり、さらに、カシ類やシイ類などの常緑樹が優占樹種となり、暗い森となっております。

その主な原因として、農家の高齢化や農家の減少のために、本来人間の手が入ることによって維持されてきた二次的な自然である里山が管理されなくなったことと、昭和30年代に始まったエネルギー革命（電気・ガス・石油）や化学肥料等によって、里山の持つ経済的価値が低くなり、多くの里山が放置されるようになってきたからです。

2. 昔話に出てくる里山を目指して

昨年10月に私の住んでいる近くの横浜市戸塚区名瀬町にある、放置され荒廃した約2万坪の里山を目の前にしました。地主さんの依頼で、失われつつある日本の原風景である里山を取り戻すために、早速12月から月2回の頻度で地域住民のボランティアの人たちや知人たちが一緒に平均15名くらいで、まず我がもの顔で繁茂している薄暗い竹林の伐採整備を開始して、この半年間でモウソウチクを600本以上伐採しました。この春には厳しい冬を耐え忍んで乗り越えたヤマザクラの花、コナラ、クヌギ、イヌシデ等の眩いばかりの新葉、モグラたたきゲームのように地上に顔を出したタケノコ、希少種を含むさまざまな野草、清々しい野鳥の鳴き声、冬眠から目が覚めたばかりのアオダイショウ等々の自然の仲間たちとの1年目の感動の出逢いがありました。自然保護の大切さを多くの地域の皆さんや子どもたちに伝え、ともに守り育てていくために、昔話に出てくるような里山づくりを目指したいと思います。



明るくなった竹林

＝横須賀三浦支部＝ 15年目を迎えた “すかっ子セミナー”

横須賀三浦支部 高橋 弘二

1. すかっ子セミナー2016

公立学校の5日制が始まった2002年、休日となった土曜日に横須賀市内の小中学生に市民活動を体験してもらおう機会をつくらうと、横須賀市市民活動サポートセンターに登録している市民団体に協働を呼びかけました。協力を申し出た約20団体で実行委員会を立ち上げ、活動分野をまとめて「生活環境系」「自然環境系」「郷土史」などのコースをつくり、5月から10月までの半年間、毎月1回の土曜日に活動する“すかっ子セミナー”を創設しました。

今年は右表に示す7コース83名の小中学生（原則小学校3年生以上）を募集し、5月15日（日）のオ

表 すかっ子セミナー2016の募集コース

No	分野	コース名	人数
1	生活環境	エコニコ・サークル	5
3	地域文化	むかしあそび in 万代会館	12
5	自然系 A	川がき探検隊	20
6	自然系 B	自然博士になろう	10
8	自然系 D	海っ子・山っ子	15
9	自然系 E	すかっ子ヨットクラブ	11
10	創作科学	創作・科学クラブ	10

リエンテーション（開講式）でスタートしました（参加者約50人）。

KECA 横須賀三浦支部のメンバーは、実行委員長（高橋）、事務局名簿管理（遠田）、5コース“川がき探検隊”（高橋、中村）、8コース“海っ子・山っ子”（高橋、中村、小嶋）が担当しています。

■今年の“川がき探検隊”は、「河口（海）から源流へ」がテーマです。7月2日（土）には野比海岸（河口）で遊んだ後、野比川の遊歩道を歩いて廻りました。上流の四つ田橋で川原に降り、ここで水生生物調査、サワガニ、ヨシノボリ、テナガエビ、ヌマエビ、カゲロウ、カワゲラ、トンボのヤゴなどが捕れました。兩岸樹木で覆われた自然の中の川を廻り、深みで泳いだり水遊びしました。この後、YRP（横須賀ササパーク）の水辺公園でお弁当をいただき、午後からは丘を下り、畑の中の道をYRP野比駅に戻りました。

■今年の“海っ子・山っ子”は、「砂浜を訪ねて遊ぶ！」です。横須賀は三方が海に囲まれており（東京湾内湾、外湾、相模湾）、時計廻りに海岸線を歩いて、砂浜を見つけたら泳ぎ、砂遊び、波と戯れて遊びます。6月18日（土）は、馬堀海岸から高潮防潮堤を歩いて走水海水浴場、走水小学校前の砂浜で貝を拾い、波打ち際で遊び、泳ぎました。江戸湾防備の低砲台があった御所ヶ崎でお昼を食べた後、観音崎へ。横須賀美術館前の砂浜、旧レストハウス前の砂浜、たたら浜、観音崎大橋下の砂浜、鴨居漁港の7つの砂浜を歩きました。



オリエンテーション（5月14日）



第3回 “川がき探検隊”
野比川上流で遊ぶ（7月2日）



第2回 “海っ子・山っ子”
馬堀防潮堤から東京湾を（6月18日）

2. 校区を流れる平作川の上流体験学習

2012年以來、市立小学校4年生の総合の学習の時間で、校区内を流れる平作川（三浦半島で一番長い川）について、横須賀市環境教育指導者派遣事業（よこすか環境教室）の出前授業で、「教室での授業」と「上流での体験学習」をセットで実施しています。

（1）教室での授業（90分）：①水の循環、川のはたらき、水道・下水道（高橋）、②平作川のいま・むかし、絶滅危惧種（遠田）、③平作川の生きもの、七夕水害（中村）、④水質測定法（高橋、中村）

※横三支部会員三人（高橋、中村、遠田）が、専門・得意分野を担当して、PPを使ってお話しします。

（2）上流体験学習（3時間30分）：①往復路（道端の自然観察）、②上流体験：(1)水質測定（パックテスト：pH、COD）、透視度、気温/水温、(2)水生生物調査、(3)源流探検

※3グループに分かれて、(1)、(2)、(3)を各20分ずつ、順次3つを体験してもらいます。道のない川の中を約300m歩いて廻り、堰から流れ落ちる水を触って（浴びて）戻る(3)源流探検が一番の人気です。

上流の川は細くて狭いので、引率は1クラス（約30名）ずつを厳守しています。



川の水生生物を調べる



pH、COD、透視度を測る



川の中を歩いて廻る

【会員投稿】

国立環境研究所公開シンポジウム2016参加印象記

川崎支部 佐久間 精一

はじめに

キャッチフレーズの、守るべき未来と「環境」の今～地球・生物・循環・安全・社会の半歩先を語ろう～にひかれて参加を申し込みました。聞けば6月24日の開催日はECUの総会当日とのことで、KECAからの参加者はいないかもしれないので、印象記は多少ご参考になるかと思います。毎年環境月間に開かれるこのシンポジウムは今年で19回を数え、6月17日に同一内容で京都にて既に開かれた由。東京会場のメルパルクホールでは、午後1時～5時に行われた6件の講演と、午前中から19件のポスターセッションも開かれており、参加者は489名でした。1974年、創立間もない頃（当時は国立公害研究所）を知っている筆者には「開かれた研究所」を目指して努力している様子が強く感じられました。

季刊の研究情報誌「環境儀」のバックナンバー数年分、「IPCC第5次評価報告書のポイントを読む」、「次世代に残したいものを残せる社会とは?」、「夏休の大公開（7月23日）の案内」、きわめて専門的な「スーパーコンピューター利用年報 平成25年度、26年度」等など、資料入れとして配られたトートバッグに入りきれないくらいの資料が配られていました。ただ、やや違和感を覚えたのは「会場内での写真撮影は原則禁止」でした。しかも休憩後の後半では、フラッシュなしならばOKとなりました。恐らく参加者からの要請によったものかもしれませんが、環境庁時代反体制派のデモ、座り込みの後遺症でなければよいのだが・・・。

【講演内容】

講演のはじめに住理事長から、この4月に第4期中長期計画のもとに活動が開始されたことを受け、今まで展開してきた研究プログラムを中心に講演ならびにポスター発表を行いたいとの挨拶がありました。

1. 地球をめぐる温室効果ガス～どこでどれだけ減らせるか～
2. 生物分布の変化を予測し保全に活かす
3. 環境における安全とはなにか
4. 東日本大震災後の災害環境研究で学んだこと、そしてこれから
5. 実践！地域のリサイクルシステムを構築する
6. 社会の持続可能性と個人の幸福

いずれも興味深いテーマである。ポスター発表を含めて研究所ホームページ <http://www.nies.go.jp/> で詳細は閲覧していただきたい。



【感想】

個人的に興味をもったものを含めて感想を記します。

- 講演2では日本の全域を対象に行った植物（藻類や苔類を除く）の個体分布調査で、現状の減少傾向が続くと、100年後には370～561種の絶滅の可能性がある。一方、国立・国定公園内では減少傾向が60%程度改善されているという。
- 講演3では、時に雑多な集合体とも見える環境の安全に係る知見の集大成を示すべく、安全確保に関する分野全体として取り組んでゆくとのこと。今後に期待したい。
- 講演4は、この4月に福島県三春町に開設された研究所福島支部からの発表であった。ここでは環境回復研究、環境創生研究、災害環境マネジメント研究に取り組むという。
- 講演6は、個人と社会と経済と環境の四つの分野の健全性を保つことを持続可能な発展の目標とする考えのもと、その目標の中身を各分野3点にしぼって整理した。環境では低炭素・資源循環・自然共生、経済では生産性・財政均衡・適正な雇用、社会は社会的規範・対応力・コミュニティ、個人では健康・生活の質・人生の質とした。これらから二つの望ましい将来像として「ゆたかな噴水型社会」と「虹色のシャワ

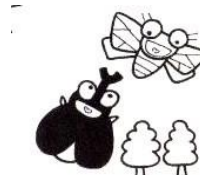
一型社会」が示された。

各講演の後には質問時間が設けられていましたが、特記するような質問はありませんでした。また予定時間ピッタリに終了、昔のように激しい議論のやり取りもなく、万事整い過ぎた感じを受けました。

【ポスターセッション】

(1) 若手研究者によるポスター発表はかなりの人ばかりで、熱心な討議が繰り広げられていました。昔の公害問題関連の会合を思い出させる光景もありました。19件全部は紹介しきれないので、興味ある案件のテーマだけを列記します。内容はホームページを参照されたい。

1. 宇宙から観た温室効果ガスの挙動～「いぶき」(GOSAT)の今と今後～
2. 過去1万年間の北太平洋中・深層水循環変動の実態解明
3. パリ合意の意義・課題と今後の温暖化対策
4. 「計画から実施へ」も支援する～持続可能な都市を目指すアジアの取り組み～
5. PRTR 制度と廃棄物処理に於ける化学物質のフローと環境排出
6. 放射線によってDNAにできる傷を検出する植物の開発と利用



いろいろなテーマにスーパーコンピューターが利用されていたり、人工衛星からのデータが活用されているのが目新しく感じました。

【後記】

毎年提出を求められている環境カウンセラー (EC) の活動報告書に、このところ休眠状態の小生は記載に苦慮しています。「老齢のため、そろそろ引退を考えている。カウンセリングに期待するならば、出前などもバリバリこなす必要があるのでは、定年制度を設けては如何？」と書いた記憶があります。

今回のセミナー参加で白紙部分が少ない報告書が提出出来そうです。研究所の発表には、大学や企業の研究調査機関との共同や連携がうたわれるものが多くみられます。残念なことに EC との連携は発見できませんでした。テーマによっては EC の活用が有意義となるでしょう。今後の検討課題としていただきたい。そして小生は、「環境モニター」としてしばらくは踏みとどまる積りです。

【会員投稿】

地球温暖化対策のための

国民運動 (COOL CHOICE) に賛同しよう

副理事長 (湘南支部) 西村 堅一郎

地球温暖化は、大気中の CO₂ 濃度が 400 ppm を超えて、ますます加速しています。関東地方でも、暖冬と猛暑、水不足という影響が出て、温暖化が身近に感じられます。

日本は国連へ「国内の温室効果ガスを排出削減・吸収量の確保により 2030 年度に 2013 年度比マイナス 26% の水準 (約 10 億 4,200 万トン-CO₂) にする」と約束しました。また、COP21 のパリ協定で、地球温暖化を産業革命以前にくらべ 2℃ 以内とするため、各国が約束を達成するための国内対策を実施する義務が課せられました。

国の温暖化対策は「地球温暖化対策の推進に関する法律 (地球温暖化対策推進法、温対法)」に定められ、「地球温暖化対策計画」によって推進します。パリ協定などを踏まえ、「改正温対法」が今年 5 月 20 日に成立し、「地球温暖化対策計画」が 5 月 13 日に閣議決定されました。

法改正の概要、主な内容は次の通りです。(環境省HPより)

- ・民生部門 (家庭・業務) は 40% の大幅削減が必要
- ・「規制」「税制」「補助金」等の施策に加え、国民一人ひとりの意識の変革や、ライフスタイルの転換を図るための普及啓発を抜本的に強化する必要がある。

- ・低炭素な「製品」「サービス」「ライフスタイル」の“賢い選択”を促す（COOL CHOICE）を旗印に、重量的・波動的な普及啓発活動を展開していく。
- ・地域レベルでの温暖化対策もより一層推進していく。

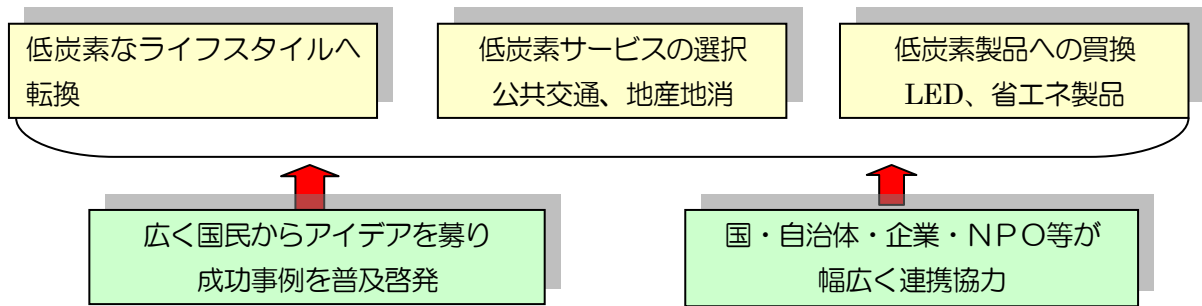


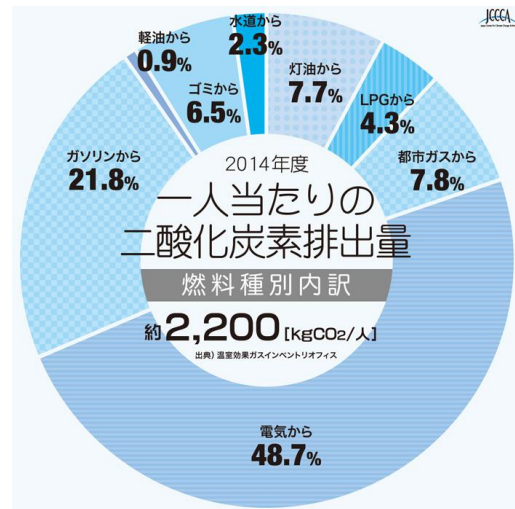
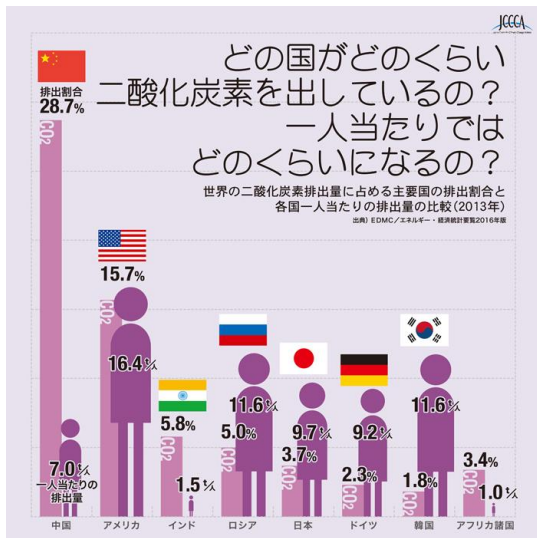
図 CO2削減の普及啓発強化のイメージ

【地球温暖化防止に私たちにできること】

1. 国・自治体などの温暖化防止活動に参加しましょう。
IPCC レポートコミュニケーター、県・市などの地球温暖化防止推進員などに参画し、地域ごとで啓発活動を行う。出前授業、講演会、環境フェアなどを利用しましょう。
2. 自分自身も CO2 削減行動を理解し、実行しましょう。
省エネ、エコドライブ、地産地消など CO2 削減にかかわる行動をやってください。行動する時に、COOL CHOICE であるかどうかを意識してください。まずは地球温暖化対策のための国民運動（COOL CHOICE）に賛同してください。また、KECA として、地球温暖化防止に貢献できるかを考え、提案してください。



未来の
ために、
いま選ぼう。



*下の図は JCCCA の HP より (事務局)

新入会員 <自己紹介>

- ・氏名：出江俊夫（いずえ としお）
- ・所属：湘南支部、環境教育委員会

今年度から環境カウンセラーに登録いただいた、出江俊夫です。一昨年転職し、30年を超える全国をまわる転勤族生活から足を洗い、やっと家族のいる茅ヶ崎をベースに生活ができることになりました。

転職を契機に、これまでの経験を形にしようと、自然系を中心にいくつか資格的なものに挑戦しましたが、そのなかで運よく環境カウンセラーの書類審査、面接試験も通り、晴れて登録いただきました。今回は事業者部門での登録ですが、登録審査の論文は「エコツーリズム」をテーマに書かせていただきました。環境保全系の方の多い事業系の中では、少し変わり種かもしれません。

環境教育分野も興味があり、KECAの環境教育委員会に入れていただきました。まだ経験不足ですが、少しずつ経験を積みながら、神奈川をベースに地域の中で環境保全活動に役立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◇主な資格：森林インストラクター、日本山岳ガイド協会認定 登山ガイド・自然ガイド、自然体験活動指導者（NELリーダー）、自然観察指導者登録（NACS-J）

2016年度 総合研修会

- 日時：9月2日（金）、13時～16時30分
- 会場：横須賀市リサイクルプラザ（アイクル）
（横須賀市浦郷町5-2、京急追浜駅バス10分）
- 内容：施設見学、講演（講師：平野雅明氏）
ワークショップ&意見交換結果の発表
- 申込・問合せ：8月25日（木）、大竹順之まで
E-mail：otakem65@keb.biglobe.ne.jp
Tel&Fax 045-842-5760（携）090-5781-5125

【編集後記】◇会報の発行にあたり事務局から原稿依頼したところ、先崎氏より4ページに掲載と同タイトルの8ページの原稿をいただきました。本会報では要約抜粋で掲載しましたが、大変参考になる内容ですので「会報別冊」として、原文をみなさまにメール配信する予定です。◇編集人は、「出来ることは頼まれたらやる」を当り前として取り組んできましたが、それが新しい芽を摘んでいる可能性があることに気づきました。今号をもって会報編集から手を引き、新しい若い力に期待したいと思います。（高橋）

新入会員 <自己紹介>

- ・氏名：大曾根 健久（おおそね たけひさ）
- ・所属：横浜支部、環境教育委員会

勤務していたエネルギー関連の会社において、環境マネジメント、社員向けの環境教育、お客さまへの環境広報活動、自然体験活動の企画運営などを担務していました。それらは環境カウンセラーの『守備範囲』と重複する部分も多く、また、千葉県内の事業所在職中には、いろいろな場面で千葉県内の環境カウンセラーの方々とお付き合いさせていただいたことから、自らも取得してみようと思ひ、2014年度に市民、事業者の両部門を取得いたしました。

拙い知識・経験ではありますが、日常生活や業務における一人ひとりの環境意識の高揚に向け、何らかの形で活かしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



会員数の現況

[人]

支部名	会員数	増減
横浜支部	41	-2
川崎支部	11	-2
横須賀三浦支部	5	0
湘南支部	9	-2
相模原支部	7	-1
県央支部	15	-2
西湘支部	9	-1
合計	97	-10

(2016年7月20日現在/2015年12月1日比)

[発行] 特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：河野健三／編集人：高橋 弘二

□住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPO 7F内

□電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

□E-メール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

□URL：<http://www.1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

[年会費等振込先]

ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711